

湖上にて

「自由」のはしゃぎ回る岸边から
漕ぎ出す風は優しく
僕の肩をそっと愛撫する

次第に遠ざかる岸边からは
華やぐ声の切れ端が時折聞こえる
ああ、何て楽しかった日々

それに比べてこの湖面の静寂は
何と広く、そして淋しかったろう
しかも、何と美しかったろう

オールを引き上げて僕は
冷たい水をすくってみる
ああ、ここには抱擁がある

湖面に映り、揺れる^{ひかり}陽光も
掌にすくい上げてみる
ああ、ここには哀しみがある

ここではすすり泣くことも、そして
祈ることも自由だった
あの岸边で許されぬ全てが

後ろ髪を引かれはしても
二度と戻ることはないと分かっていた
戻れないと分かっていた

(1999.9.6)